

余白から生まれる セカンドスペース



余白から生まれる
セカンドスペース

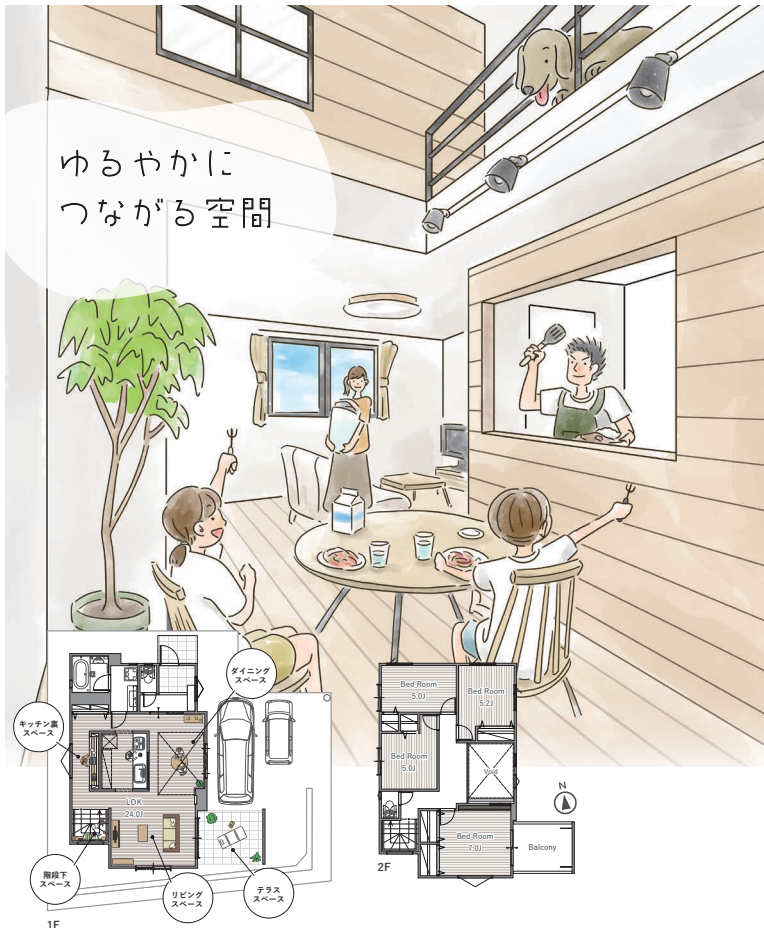


概要

リビング内の余白をセカンドリビングと見立て、それぞれの居場所を完全に隔てることなく、個の空間を保ちます。緩やかに家族と繋がることを叶える空間をもつ住宅を計画しました。

課題への着眼点

リモートワークが当たり前の時代になり、多くの家庭で、家の中で過ごす時間が増大しました。「おうち時間」では、同一空間に家族全員が長時間過ごす中で、閉塞感やプライバシーの確保されないストレスから、家族間でも個の時間・空間の必要性が高まっています。一方で、個を尊重し過ぎて家族の繋がりを断ち切ってしまいます。そこで完全に個を隔てることなく個の空間を保ち、緩やかに家族と繋がれるような、セカンドスペースを提案いたします。



リビングの「余白」をセカンドスペースとして、それぞれが好きなことをして過ごしています。一緒にいながら個のスペースが保てる、ゆとりの空間になっています。

使い方いろいろライフスタイルパターン

family case 1 仲良し兄妹家族

3兄妹がいる家族はキッチン前の「余白」空間に3人揃って学習ができる長いカウンターを設置。キッチンで料理をしながら、子どもたちの様子を見れる配置に。テラス空間は子どもたちが元気よく動けるような遊び場として活用可能です。

family case 2 猫ちゃん大好き家族

「余白」スペースに猫ちゃんが喜ぶ空間をたくさん盛り込んでいます。リビングの壁際には、運動がたくさんできるキャットタワーなどを設置。階段下スペースは猫ちゃんのリラックススペースとして使うことも可能です。

family case 3 ガーデニング好き家族

ガーデニングが好きな家族はキッチン前にカウンターを設置し、大きな植栽を眺める空間に。それ以外の「余白」スペースにも植栽を散りばめ、いつでも好きな植物を眺めることのできる室内空間としています。